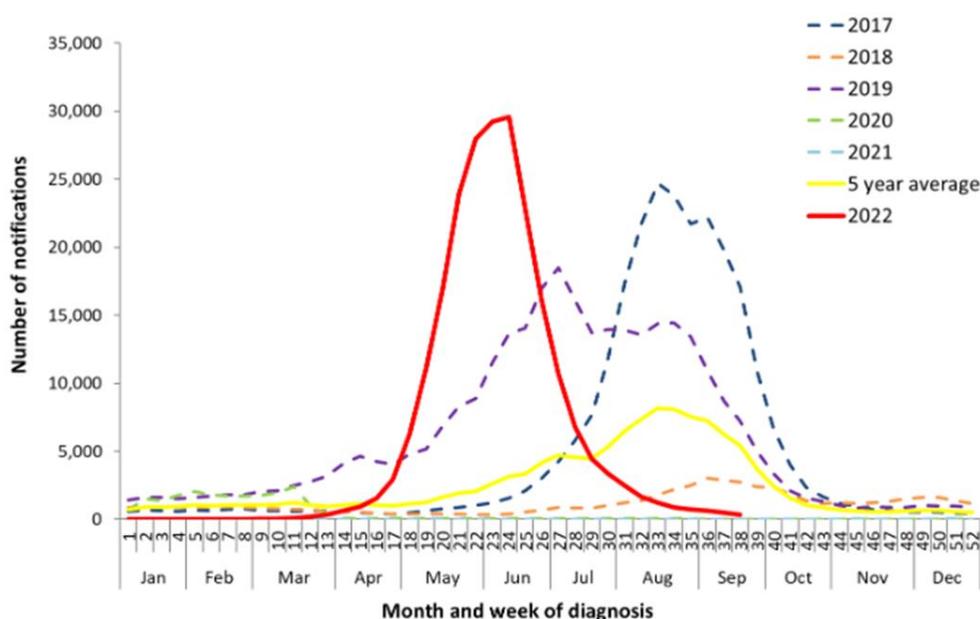


インフルエンザと COVID-19 同時流行を考える

静岡県立静岡がんセンター 倉井華子

2022-23 年シーズンには、季節性インフルエンザも流行すると予想されています。2022 年 11 月 2 日の静岡県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議でも最大で 1 日に 12,400 人のインフルエンザ患者が発生する可能性があるとして試算されています¹⁾。日本と季節が逆転する南半球では毎年 4-9 月にインフルエンザが流行します。オーストラリアでは 2020-2021 年インフルエンザの発生がほぼありませんでした。ところが 2022 年は 4 月から急峻に感染者が増えここ数年の中で最大規模の感染流行がみられています(図 1)²⁾。国内でも京都や大阪では 11 月後半に入り報告数が増加してきています³⁾。大流行とまではいかないでしょうが、今シーズンはある程度インフルエンザの発生が起こりうると想定しておく必要がありそうです。



Source: NNDSS

図 1 豪州のインフルエンザ年次比較

この 2 年間インフルエンザを診療していない医師も多いと思います(私もそうです)。インフルエンザの臨床や検査について再確認したいと思います。インフルエンザについて一番まとまっていると感じるのは文献4ですので興味がある方はご一読ください⁴⁾。ヒトに流行するインフルエンザは A,B,C の 3 つ種類があります。ただ C 型はほぼ症状が乏しいため問題になるのは A と B 型です。さらに A 型は 2 種類のスパイス蛋白、ノイラミニダーゼ(NA)とヘマグルチニン(HA)から 100 種類以上に細分化されます。近年の流行株は A(H1N1)、A(H3N2)、B 型です。

インフルエンザは全例検査し診断すべきか？以前の通報にもありましたが、迅速検査キットの感度はそれほど高くなく、感度 62.3%、特異度 98.2%と限界があることを知っておく必要があります。新型コロナウイルスで患者も医療従事者も検査ありきの診療に慣れてしまっているのが注意が必要です。迅速診断より優れているのが臨床診断です。インフルエンザの典型像は突然発症の高熱であり、そのほか頭痛、関節痛、咳嗽、倦怠感、咽頭痛などの症状が加わります。地域の流行状況に加え、典型的な症状(突然の発熱、咳嗽)があることで尤度比(インフルエンザらしさ)5.4 と可能性が高くなります。実際に感染症の成書である Mandell によると臨床診断の感度は 80-90%と迅速診断よりも高いことが書かれています⁵⁾。

診断後は重症化リスクで治療を考えます。インフルエンザの重症化リスクは、小児、65 歳以上、慢性肺疾患(喘息を含む)、心血管疾患(高血圧症を除く)、腎疾患、肝疾患、神経疾患、血液疾患、代謝性疾患(糖尿病を含む)、免疫不全者、アスピリン使用者など COVID-19 とかなり重なります⁶⁾。本邦で使用できる抗インフルエンザ薬は、内服のオセルタミビル(タミフル)、パロキサビル(ゾフルーザ)、吸入のザナミビル(リレンザ)、ラニナミビル(イナビル)、点滴のペラミビル(ラピアクタ)と 5 種類あります。重症化リスクのある患者では合併症や死亡を減らしますが、重症化リスクのない症例では有熱期間を 1 日程度短縮する程度の効果です^{4),7)}。本冬は多くの発熱患者の診療に追われると予想されます。いかに重症化リスクのある症例を治療に結び付け、予後を変えるかが重要になると思います。

- 1) 令和 4 年 11 月 2 日会議資料2.https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-420a/kansen/documents/25_siryou2.pdf
- 2) <https://www.health.gov.au/sites/default/files/documents/2022/10/aisr-fortnightly-report-no-13-12-september-to-25-september-2022.pdf>
- 3) 厚生労働省「インフルエンザの発生状況 令和 4 年 12 月 9 日」
<https://www.mhlw.go.jp/content/001021597.pdf>
- 4) Paules C, Subbarao K. Influenza. Lancet. 2017 Aug 12;390(10095):697-708. PMID:28302313
- 5) Mandell, Douglas & Bennett's Principles & Practice of Infectious Diseases 9th edition. Influenza Viruses, Including Avian Influenza and Swine Influenza
- 6) <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9429824/pdf/rr7101a1.pdf>
- 7) Liu JW, et al.: Comparison of Antiviral Agents for Seasonal Influenza Outcomes in Healthy Adults and Children: A Systematic Review and Network Meta-analysis. JAMA Netw Open. 2021 Aug 2;4(8): e2119151. PMID: 34387680